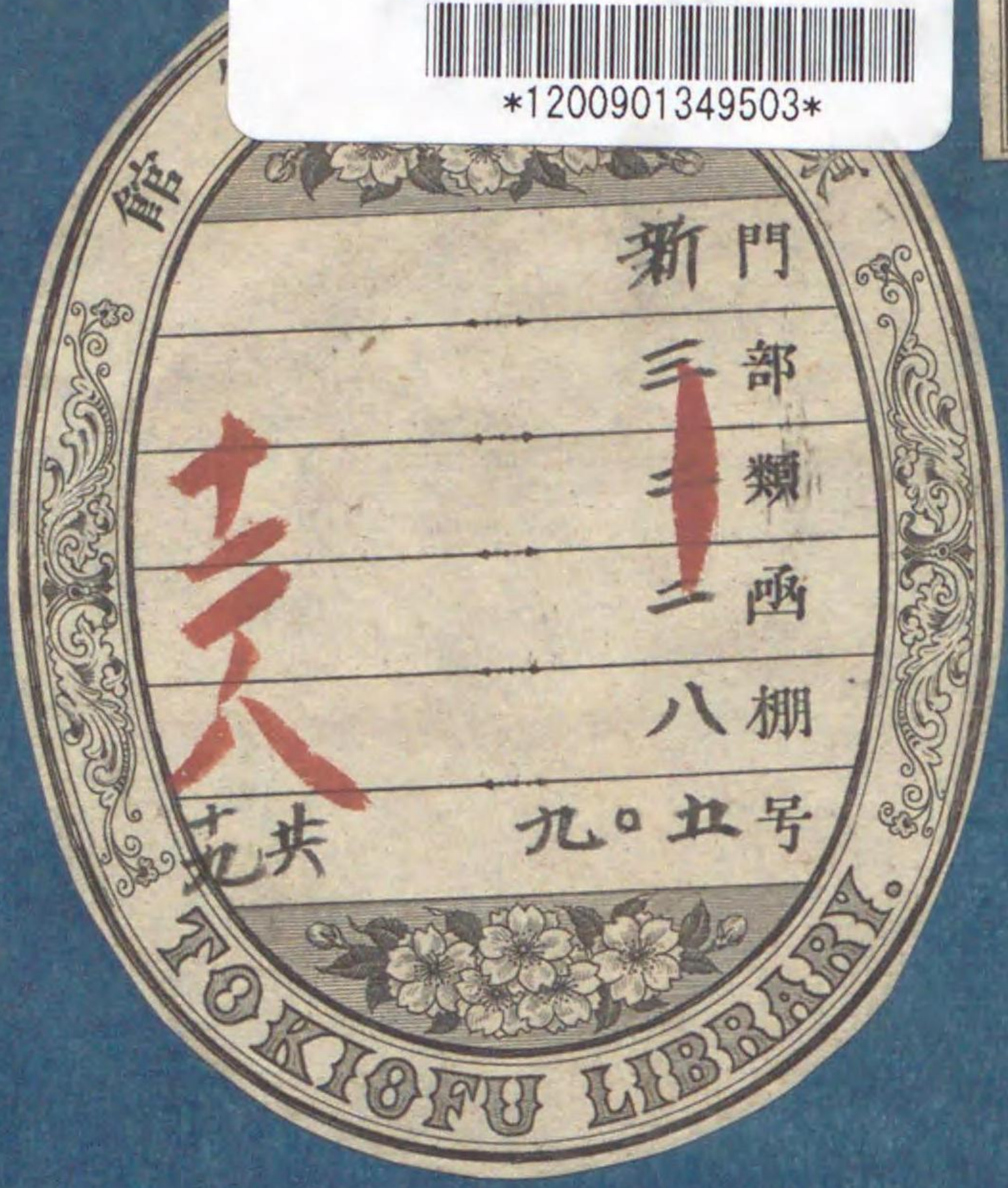


解剖訓蒙

脈管論

十二



Y994-J10255

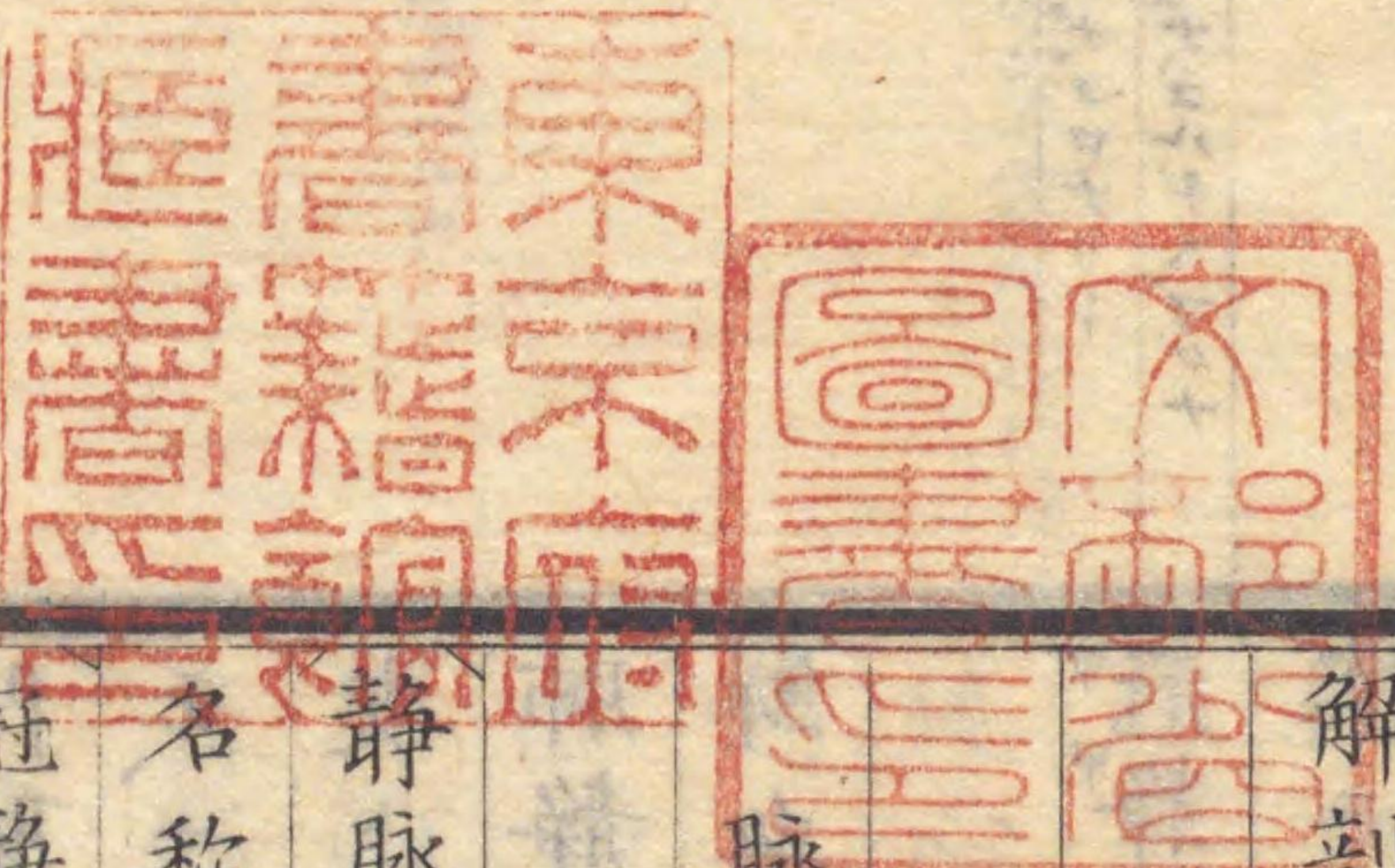


1200901349503



五十九号





Y994
J10255

解剖訓蒙卷之十二

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著

日本 文部大助教横井信之譯

脉管論

静脈

静脈ハ、八個ノ大幹、及び其諸支ヲ總括セシ者ノ

名称ナリ、之ヲ龙ニ列ス

冠静脈一コロナリハ、數支ヲ以テ、血液ヲ心ノ壁面

ヨリ聚取シ、心ノ右房ニ歸納セシム

上下大静脈一ソベリオル、エンバ、ハ、亦々數支ヲ以



I 種
W



1200901349503

テ、血液ヲ全身ノ諸部ヨリ娶取シ、心ノ右房ニ歸納セシム、

門脉ル、ホルタルハ、腸、胃、脾、腎等ヨリ受原シ、湊合シテ、一幹ト為リ、肝ニ入り、復々細分シテ、他ノ諸織支ト為レリ

肺静脉ル、ポルモンナリハ、其數四條ナリ、兩肺ヨリ新鮮血ヲ受ケ、心ノ左房ニ歸納ス

冠静脉ル、コロナリ

冠静脉ル、コロナリハ、心ノ尖端ヨリ起リ、室ノ前縦溝ヲ上リ、次ニ左横溝ヲ廻リ、心ノ後部ニ達シ、右房ニ入テ

甲
ウナ、コロナリ
ウナ、コルダス、マダナ

田
ウナ、コルダス、メシ

乙
ウナ、バルナ

丙
ウナ、コルダス、メシ

開口ス蓋シ辨ヲ具有セリ其經過中ニ兩室及ヒ

左房ヨリ心支ル、ポルモンナリヲ受ケリ

後心静脉ル、ポルモンナリハ亦心ノ尖端ヨリ

起リ後部ニ於テ兩室ノ間ヲ上リ冠静脉ニ會終

ス其經過中ニ兩室ヨリ心支ル、ポルモンナリヲ受ケリ

前心静脉ル、ポルモンナリハ屢ニ條ニシテ心ノ

前部ヨリ右横溝ヲ廻リ後方ニ向ヒ亦冠静脉

ニ會終ス其經過中ニ右房及ヒ室ヨリ心支ル、ポルモンナリ

クベル、ポルモンナリヲ受ケリ

以上三静脉ノ外別ニ許多ノ織小ナル心静脉ル、ポルモンナリ

心静脉ル、ポルモンナリ

ジアクスベアリテ右室ヨリ上行シ各別ニ右房ニ
ハテ開口ス

上大静脉ルツカペリオ

上大静脉ハ大幹ニシテ頭頸上支及ビ胸壁等ノ

數静脉ヲ領収ス其位置大動脈弓ノ右側即チ右

肺ノ根前ニ在リ其始端第一肋軟骨ノ後部ニ在

リテ二條ノ無名静脉ノ湊合ニ由テ造成スル者

ナリ漸次ニ下行シテ奇静脉ヲ受ケ心ノ右房底

ノ上部ニ終ル此幹大動脈弓ニ比スレハ稍ヤ細

小ニシテ且ツ無瓣ナリ

甲
ウチカハソペリオル
ウチカハテセンテンス

無名静脉

無名静脉ハ各側共ニ一條ニシテ胸鎖門節ノ后

部ニ在テ内頸静脉ト鎖骨下静脉ノ湊合ニ由テ

造成セシテ而テ右無名静脉ナレフトインノミハ同

名動脈ノ前面ヲ下リ左無名静脉ナレフトインノ

稍ヤ長クシテ弓頂發起ノ動脈前ヲ横行シ右

側ニ至リ左右兩管相會結シテ即チ上大静脉ト

為レリ

此静脉ハ左右共ニ無瓣ナリ而テ後ニ造成静脉

ノ外内乳静脉脊椎静脉下甲状静脉及ヒ屢々左上

ノ外内乳静脉脊椎静脉下甲状静脉及ヒ屢々左上

甲 ウチマモマリイニシテ

肋間静脉ヲ領収ス不甲始精氣ノ内乳静脉マインテルナナルマムハ二條ニシテ同
 名動脈ト伴行シ其起原ハ内乳動脈ノ末稍ニ於
 テ其細分支ノ數ニ適セル細絡ヲ會収シテ成レ
 リ而テ漸次ニ巨大ト為リ遂ニ無名静脉ニ會結
 シテ終ル左側ノ者ハ屢上大静脉ニ會結ス信之
ルニ左側ノ者ハ右ノ字ノ誤リヲラシムハ
 背推静脉ウユルベインラハ小管ニシテ背推動脈ニ
 伴フテ頸推ノ横突起ヲ穿行シ其原衆支ヲ以テ
 後頭ヨリ起リ頸部ヲ下降スル間ニ近傍ノ諸筋

乙 ウチテテブラリス

及ヒ脊髓静脉洞ヨリ他支又受テ遂ニ無名静
 脉或ハ鎖骨下静脉ニ終ルハ
 下甲狀静脉イロイトハ甲狀腺ニ於テ許多ノ
 小支ヨリ起リ咽頭喉頭胃管氣管等ヨリ衆支ヲ受
 ケテ漸次ニ巨化シ遂ニ無名静脉ニ終ル稀ニ兩
 側ノ二條侶合シテ一管ト為リ氣管ノ前面又下
 左無名静脉ノ真中ニ終ル

甲 ウチロイテアインペリオル

頭及ヒ頸部ノ静脉
 頸静脉ベシギラスルハ其數ニ條ニシテ頭頸ノ主
 幹ナリ而テ頸側ニ布置ス其一條即チ内頸静脉

乙 ウチジユキヲリス

内頸静脉

甲
ウチアポフレカチカ

水深在ノ静脉ニ相當ス乃チ頭髓及ヒ眼窩ノ内
 部ヨリ血液ヲ回導セリ常ニ頭髓顔面及ヒ頸ノ
外表諸部ヨリモ血液ヲ
 多分ニ外頸静脉エキステルナ
レハ手足ノ大
 表在静脉ニ相當シ頭髓ノ外部及ヒ尋常面部頸
 部ヨリ血液ノ十分ヲ受収スハ
 頭頸ノ諸静脉ハ頭静脉ヲ除ク他總テ辨ヲ具
 有セス
 内頸静脉ギ
ラン
テ
ル
ナ
ー
ル
シ
 内頸静脉ハ球状ノ擴張ヲ以テ頭髓ノ頭静脉孔

ヲリ起リ厚脳膜諸竇ノ血液ヲ收納シ内頸及ヒ
 普通頸ニ動脈ノ外側ヲ下リ遂ニ鎖骨下静脉ト
 會合シ乃チ無名静脉ト為シ其頸部ヲ下行スル
 間ニ凡テ顔面舌咽頭上甲状及ヒ後頭等ノ静脉
 ヲ領セリ時トシテハ顛顛静脉ノ一半或ハ全數
 ヲ受タルコトアリ此静脉ノ大サハ左右齊シカラ
 ス而テ外頸静脉ニ比スルモ亦然リ然レモ其大
 小者右側ヲ以テ常トス且ツ屢左右兩管其領
 セル支數モ亦々差等アリ此脉其下部ハ屢多少
 ノ擴張アリ且ツ末端ニ於テ一對ノ辨ヲ具有ス

解剖学

卷之三

五

甲 サイニユス、ジュラ、マトリス

厚脳膜諸竇 サイニユス、オルフ、ゼ 厚脳膜ノ層間ニ形

成セラル、裡面ハ、静脈内層ノ連続ニシテ、内膜ヲ

以テ被覆ス諸竇、皆ナ辦無ク、且ツ伴行ノ動脈無

シ、而テ腦、脳膜、頭蓋骨、及ヒ眼窩ノ静脈ヲ領收シ、

遂ニ内頸静脈ニ輸送ス、以下ノ諸竇是ナリ

側竇 サイニユス ハ、頭腔ノ各側ニ在ル大竇ニシ

テ、他ノ諸竇ヲ湊合ス其始端ハ、枕骨ノ内結節ニ

當ル諸竇聚合 フ、ゼイ、サイニユス、オト 稱スル處ニ

シテ、外方ニ向ヒ、枕骨ノ横溝ニ沿ヒ、漸次ニ下内

方ニ進ミ、岩状部溝ニ入り、頸静脈孔ニ達シ、以テ

頸静脈ト連結ス而テ、彼ノ聚會ハ、即チ上縦竇、直

竇、及ヒ後枕骨竇ニ由テ、形成セラル者ナリ

上縦竇 ジツナール、サイニユム ハ、單管ニシテ、頭腔

中線ニ位シ、額骨鶏冠ノ底部ヨリ起リ、大脳鎌

状中隔ノ凸面ニ沿ヒ、後方ニ進ミ、所謂諸竇聚會

ニ達ス管形三角ニシテ、前方ヨリ後方ニ向ヒ、漸

次ニ大成ス、蓋シ頭腔中線ニ淺溝ヲ形成スルハ

之ガ為メナリ其經過中ニ上中脳静脈ヲ領セリ

下縦竇 テニシナール、サイニユム ハ、亦々單管且ツ纖

丙 シンニユス、サイニユム

乙 サイニユス、タラシ、ジュニユス

甲 サイニユス、ハルキホルミス

乙 サイニユス、ハルキホルミス、ハ、シ、ハ、リ

小ニシテ、大脳鎌状中隔ノ四面ニ沿ヒ、後方ニ走
リ、直竇ニ終ル、其管ニシテ、頭腔ノ中線

甲 サイニス、レクテナス

直竇 サイニス、レクテナス ハ、亦々單管ニシテ、頭腔ノ中線

ニ位シ、大脳鎌状中隔ト、大小脳中隔ノ連結線ニ

走リ、而テ諸竇聚會ニ終ル、其管形三角ニシテ、始

端ハ、下縦竇及ヒ腦室静脉ヲ受テ、漸次ニ經過ス

ルニ隨ヒ、大脳及ヒ小脳ノ近傍部ヨリ、數條ノ静

脉ヲ領セリ、

乙 サイニス、レセダキニウム

蜂窩竇 サイニス、レセダキニウム ハ、大積ナル短竇ニシテ、粘液

窩ノ兩側ニ位シ、其内位ハ、纖維ノ經索、即チ厚腦

膜ノ發芽ニ由テ、間錯聚結シ、恰モ蜂窩ノ如シ、而

初尚チ著明ニ持異ナル所ニ、其壁内ニ、眼神经、滑

車神经、動眼神经、外轉神经、及ヒ内頸動脈等ヲ含

有セリ、然レヒ裡膜ニ由テ、其内位ト障隔ス、其前

部ハ、眼静脉ヲ受テ、後部ハ、岩状竇ト相通ス

環状竇 サイニス、レキニウス ハ、粘液体ヲ圍擁シ、左右ノ蜂

窩竇ト相通ス、

上岩状竇 サイニス、レキニウス ハ、細管ニシテ、蜂窩

竇ヨリ展延シ、岩状部ニ附着セル、大小脳中隔ノ

縁ニ沿ヒ、而テ側竇ニ接続ス、

甲 サイニス、シルキニウス

乙 サイニス、レキニウス

甲 サイニス、パトリス、シラリス

乙 サイニス、バシラリス

丙 サイニス、オキピタリス

解剖学 卷之三

下岩状竇 ロイン、ヘリ、ル、サ、イ、ニ、ユ、ス、ハ、亦、タ、蜂、窩、竇、ヨリ
展延シ、岩状部、下縁ニ沿ヒ、後方ニ進ミテ、側竇
ノ末端ニ會合ス、

前枕骨竇 ピアン、テ、リ、オ、ル、オ、キ、ハ、間、一、對、ニ、シ、テ、枕

骨ノ基礎突起ヲ横行シ、下岩状竇ノ間ニ銜居ス、

故ニ又々横竇ト云ヘリ、

後枕骨竇 ピアン、テ、リ、オ、ル、オ、キ、ハ、亦、屢、一、對、ニ、シ、テ、

小静脈ヲ以テ、枕骨孔ノ兩側ニ起リ、小腦鎌状中

隔ノ凸面ニ沿ヒ、上行シテ諸竇聚會ニ終ル、

腦ノ諸静脈間、

甲 サイニス、パトリス、シラリス

乙 ウ、ゼ、メ、ジ、ア、ナ

丙 ウ、ゼ、イ、ン、ヘ、リ、オ、レ、ス

腦ノ静脈ハ、腦實質ヨリ發起ノ細絡、薄腦膜ニ於
テ間錯シ、緻網ヲ結ヒ、漸次ニ會湊シテ、大支ト為
リ、腦表ノ數溝ニ沿ヒ、近隣ノ厚腦膜竇ニ連接ス、
以下之ヲ辨説ス、

上腦静脈 ソ、パ、ル、バ、オ、ル、シ、レ、ス、ハ、大、腦、半、圓、ノ、外、面

ヨリ起リ、斜ニ厚腦膜ヲ穿過シ、前方ニ向テ上行

シ、上縦竇ニ開口ス、

中腦静脈 ミ、ジ、ア、ル、バ、ン、セ、レ、ス、ハ、縦、溝、ノ、兩、側、ヨリ

上行シ、上縦竇ニ達ス、

下腦静脈 ソ、パ、ル、バ、オ、ル、シ、レ、ス、ハ、各、近、隣、ノ、諸、竇、ニ

...

甲 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

開口、即チ其大腦前部ノ支ハ、蜂窩竇、後部ノ支ハ、側竇及直竇、中間ノ支ハ、上岩状竇ニ於テス

甲 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

内脳静脈、パイラニテ、ル、ベ、リ、ン、ス、ハ、其數ニ條ニシ

甲 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

テ、後方ニ向ヒ、第三腦室ニ至リ、脈絡膜ニ薄ク、之、真

甲 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

中部、走ル、侶、合シ、短幹ト為リ、或ハ各、分離シ、直竇

乙 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

直竇ニ始テ、終ル、其經過中ニ、脈絡叢、線状体、視

乙 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

神経末、大、小、腦、中、隔、及ヒ、腦脚等、ヨリ、數支ヲ受ケ

乙 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

直竇ニ終ル、

甲 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

下小脳静脈、ル、イ、レ、リ、カ、レ、ス、

甲 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

及ヒ、延髓等、諸支ト共ニ、下岩状竇、後枕骨竇、或

乙 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

ハ、側竇等ニ終ル、

乙 ウ、セ、レ、バ、リ、イ、レ、リ、カ、レ、ス

版障及ヒ、腦膜静脈、

丙 ウ、メ、ニ、ン、ヂ、ー

布、頭蓋、眼窩、及ヒ、厚腦膜、静脈ト相通ス、又、或

丁 ウ、メ、ニ、ン、ヂ、ー

厚腦膜竇ニ接続ス、

丁 ウ、メ、ニ、ン、ヂ、ー

脳膜静脈、ハ、二條ニシテ、同名ノ動

丁 ウ、メ、ニ、ン、ヂ、ー

脈ニ伴行シテ、經過ス、或ハ、厚腦膜竇ニ終ルコト

大脳膜静脈、ハ、内脰静脈、及

内脰静脈、及

ト

蜂窩竇終ル

甲

眼静脈ハ内眥ヨリ起リ、顔面静脈ト合物ス其布

置、殆ト眼動脈ニ隨行シ、眼窩ノ内部ニ沿ヒ、後方

向ヒ、蝴蝶孔ヲ穿過シ、蜂窩竇ニ終ル

外頰静脈ハ内頰静脈ヨリモ、頰ル纖小ニシテ、顳

顳静脈ノ一部、或ハ全部ト、耳後静脈トノ結合

スリ成ル、或ハ唯々耳後静脈ノ連幹タリ、又或

ハ、顔面静脈ト結合シテ成レリ、顴角ノ近傍ヨリ

乙

外頰静脈

顳顬

耳後

顔面

ト

甲

ウ

カ

ミ

メ

モ

ム

ミ

メ

モ

ム

ミ

メ

モ

ム

ミ

メ

モ

ム

ミ

メ

モ

ム

ミ

メ

モ

ム

ミ

鎖骨真中ノ后部ニ至リ、遂ニ鎖骨下静脈ト會合

シ終ル此脉、尋常、經過ノ真中ニ於テ、一辨アリ、又

下端ニ於テ、他辨ヲ具有セリ、其起根支ノ他ニ、左

ノ四支ヲ領セリ、

前頭静脈

後頭静脈

上肩胛静脈

二順次ス

ハ、同名動脈ノ經過

ル

ル

ル

ル

甲 乙 丙 丁

乙 乙、ハニアリス

丙 丙、ア、ギ、ユ、リス

丁 丁、フ、ロ、ン、タ、リス

解部訓蒙

卷之四

十

横頸静脈

ルタビカ、ス、ル、ペ、ル、ス、セ、ハ、亦、夕、同、名、動、脈、ト

伴行ス

顔面静脈

ハ、マ、シ、フ、ン、

顔面静脈

ハ、允、ソ、顔、面、動、脈、ノ、經、過、ニ、順、次、ス、然、レ

氏、著、明、ナル、迂、曲、ナ、シ、且、ツ、顔、ル、後、位、ニ、布、置、シ、テ、

内、背、ニ、起、原、ス、之、ヲ、^丙内、背、静、脈、ト、稱、ス

生、活、間、ニ、屢、皮、下、ニ、浮、起、シ、テ、透、見、シ、此、部、ニ、於、テ

眼、静、脈、ト、合、吻、ス、又、屢、^額額、静、脈、ト、稱、ス、^乙フ、ロ、ン、タ、リス、ヲ、受、納

セ、リ、^額額、静、脈、ト、合、吻、ス、又、屢、^額額、静、脈、ト、稱、ス、^乙フ、ロ、ン、タ、リス、ヲ、受、納

額、静、脈、ハ、顛、顛、静、脈、ト、交、錯、シ、額、ノ、正、中、ニ、下、リ、鼻

根ニ達シ、屢他側ノ同名静脈ト合吻シ、又屢眼静脈ニ會合ス

顔面静脈ハ、腮角ノ近傍ニ在テ屢内頸静脈ニ終リ、或ハ顛顛腭静脈ト偕合シテ、外頸静脈ニ接続ス、又或ハ外頸静脈ノミニ終ルヲアリ、其經過中ニ左ノ諸支ヲ領セリ、

上眼窩静脈

上眼瞼静脈

鼻静脈

下眼瞼静脈

下眼瞼静脈

甲 甲、ウ、ダ、テ、オ、リ、ス

乙 乙、ハ、ル、ア、ラ、リ、ス、

丙 丙、サ、リ、ス、

丁 丁、ハ、ル、ア、ラ、リ、ス、

甲 ムマッセルリカエトビ
ユカリス

乙 ウラビアリス

丙 ウムフメタリス

丁 ウムフマキシルネス

戊 ウバラチナ

乙 ウテムポテリス

甲 ウムボラリス、ムルヒ
シアリスアテオル
乙 ウテムボステリオル

丙 ウアチキリス

丁 ウアウキリス
プロハウニダ
戊 テムボラリスメシア

角音訓蒙

卷之四

十

來ル

咬及頰筋静脉 マカセルトベリク、エニド、ハ、頰ヨリ來

唇静脉 ラビニスル、ハ、唇ヨリ來ル、

腮下静脉 ソクベメインタハ、腮領ヨリ來ル

下腭静脉 ソクベマキンシラハ、下腭腺ヨリ來ル、

口蓋静脉 ソクベラニシハ、軟口蓋及ヒ扁桃腺ヨリ來

顛顛静脉 テムポライ

顛顛静脉 及ヒ其支別ハ、凡テ同名動脉ノ經過ニ

隨行ス、然レ迂曲稍、少シ、即チ前顛顛静脉 アノルテ

後顛顛静脉 ボス

オレ、テムポラハ、枕骨静脉ト合吻シ、普通顛顛静脉

ハ、耳下腺ニ竄入シ、下腭ノ頸部ニ於テ内腭静脉

ト結合シ、乃チ顛顛腭静脉ト為ル、其經過中ニ、左

ノ諸支ヲ領セリ

關節静脉 アノルテ ハ、下腭關節ノ後部、即チ

静脉叢ヨリ來ル

耳前静脉 アノルテ ハ、耳前ヨリ來ル

中顛顛静脉 アノルテ ハ、同名動脉ノ經過ニ

解音言蒙

卷之七

十一

順次ス

横行顔面静脈

シアラシクセルス、ハモ、同名動脈ニ

隨行ス

耳下腺静脈

ベロチット、ハ、耳下腺ヨリ來ル、

内腭静脈

イゼラテルナイルマ

内腭静脈

ハ、翼狀筋間ノ静脈叢ヨリ起リ、内腭動

脈ト接居シテ、其伴行静脈ヲ領ス、此脈ハ、一箇ノ

短管ニシテ、下腭頸ノ後部ヲ過キ、耳下腺内ニ於

テ顚顚静脈ト吻合シ、又或ハ一對ニシテ、共ニ顚

顚静脈ニ結合シ、又或ハ一支、顚顚静脈ト結合シ、

甲 文タラシクセルス、ハ、モ、

乙 文パロチット

丙 文イゼラテルナイルマ

他支ハ、下テ腭角ニ至リ、内頸静脈ニ終ルヲアリ

顚顚静脈

エムポレ、マキゼ

顚顚静脈

ハ、顚顚静脈ト、内腭静脈ノ一部、或ハ

全部ト、結合セシ者ニシテ、外頸動脈ト伴行シ、耳

下腺ヲ穿過シ、耳後静脈ニ結合シ、以テ外頸静脈

ト為ル、或ハ分岐シテ、其一半ハ、外頸静脈ヲ助成

シ、一半ハ、顔面静脈ト結合シテ、内頸静脈ニ連結

ス、又或ハ屢、全部、顔面静脈ト結合シテ、内頸静脈

ニ終レリ

耳後静脈

リステリ、オ、ハ、オ、

甲 文エムポレ、マキゼ

耳後静脈

甲 亨リキヲスルヲ

耳後静脈ハ同名動脈ノ經過ニ順次シ、顛顚膠静脈ト結合シ、其一半或ハ全部、外頸静脈ニ終ル然レ、耳顛顚膠静脈ト顔面静脈ト結合スルモ、耳後静脈ハ、外頸静脈ノ真ノ起根ヲ為セリ

乙 ウオキヒタリス

枕骨静脈ハ、同名動脈ノ經過ニ隨行シ、常ニ内頸静脈ニ終レリ、然レモ稀ニ外頸静脈ニ終ルアリ、其經過中ニ、乳頭静脈トマストシテ受ケテ側賣ト交通スレテ得タリ

甲 文トサカスリ

舌静脈

舌背静脈

舌ノ上部扁桃腺及

乙 ウラニン

蝦蟇静脈

舌下神經ニ從テ後方ニ走

丙 ウ、パ、リ、レ、デ、ア

咽頭静脈

咽頭ノ兩側及ヒ後壁ノ静脈叢ヨリ

起リ、下テ舌骨ト水平ニ位シ、而テ内頸静脈ニ終

解剖学 卷之十一

甲ウタイロト友ノル

上甲狀靜脈 ロソペリオル、ベールンタイ

甲 甲狀靜脈ハ、二條ヲ常トス其起根ハ、甲狀腺ノ上部及七側部且ツ喉頭、氣管等ヨリ湊合シ而テ内頸靜脈ニ終ル間、又舌或ハ顔面靜脈ニ終レリ

上肢ノ靜脈

上肢ノ靜脈ハ深淺ノ二列ニ位ス、而シテ其深在ノ列ハ、動脈ニ隨行シ淺在ノ列ハ、動脈ニ関セズ、皮下ニ在テ各異ノ道路ヲ取レリ、然レモ其末端ハ、遂ニ深在靜脈ノ主幹ニ終レリ、深淺ノ二列、屢々合吻ニ由テ交通ス、而テ其支、許多ノ辨ヲ具有セリ

甲ウソブクラヒア

殊ニ深在靜脈ニ於テ多シ

鎖骨下靜脈 ソブクラヒン

鎖骨下靜脈ハ、腋下靜脈ノ連管ニシテ、辨ヲ具有セズ、其始端ニ於テ外頸靜脈ヲ受納シ、遂ニ内頸靜脈ト會合シテ、無名靜脈ト為ル此脉、第一肋骨ヲ超過スルキニ、前不齊筋ノ着點ニ由テ鎖骨下動脈ト障隔セリ

上肢深在靜脈 ソブクラヒン、オフ、セイ、

上肢深在靜脈ハ、一對ヲ以テ、腋下動脈ノ他、各個ノ諸動脈ヲ擁護ス、間、又二條ノ靜脈横支ヲ以テ、

互ニ交通スルヲアリ
 上臂静脈 ヒブラチンアリハ、二條ナリ、其内條ハ、大ニシテ、常ニ上臂中部ノ真上ニ於テ、淺在列ノ王静脈一名責ヲ受ケ、腋窩ニ上リテ二條侶合シ、乃チ腋窩ニ上リテ、鎖骨下通過中ニ、又淺在列ノ腦静脈ヲ受ケ、乃チ鎖骨下静脈ト為ル。
 上肢淺在静脈 ソベレヒシ、深在ノ列ヨリモ、大且ツ多クシテ、動脈ニ伴行セズ、皮下ニ在テ、許多ノ交通ヲ為シ、恰モ網狀ヲ形成シ、以テ上支ヲ圍擁ス。此脈肥

豊家ニ於テハ、淺筋莖ノ脂肪組織内ニ包藏ス、然レハ羸瘦家ニ於テハ、尋常皮表ニ浮起シテ、徃々透見ス。此脈、屢交結支ニ由テ、深在ノ静脈ト通ス、而シテ末端ハ、遂ニ其主幹ニ終レリ。

甲 文ニルナレス、キユタニ

尺骨皮静脈

ユルナリス、ベリンクスタハ、其數ニ條ヲ常ト

乙 文ニルナレス、キユタニ、ホステリオル

静脈

ホステリオル、ユルナリス、ベリンクスタハ、手背ノ外部ヨリ

起リ、下臂ノ後内縁ニ上行シ、肘窩ニ至テ、王静脈ノ名ヲ得タリ、其經過中ニ、數條ノ吻合支ヲ以テ、

丙 文ニルナレス、キユタニ、アンテリオル

橈骨皮静脈

ト交通ス、前尺骨皮静脈

甲 文ハシリカ

ハシリカ、手頭ノ前面ヨリ起リ下臂ヲ上行
 スベシ、或ハ後尺骨皮静脉ト結合シ、或ハ中静脉ト結
 合シ以テ終ル其經過中頻リニ後支ト合吻ス
 王静脉 ハシリカ、ハ後尺骨皮静脉ノ連管ニシテ
 二頭筋ノ内縁ニ沿ヒ上行シテ上臂筋莖ヲ穿透
 シ亦々上臂中部ノ真上ニ於テ上臂静脉ノ一幹
 ト結合ス 木部ニ入リテ其主幹ニ合ス
 橈骨皮静脉 ラジアルベシ、ハ手背ノ外側ヨリ
 起リ下臂ノ外縁ニ沿ヒ上行シテ肘窩ニ至リ腦
 静脉ノ名ヲ得タリ其經過中下臂ノ前後ヨリ數

乙 文シアリスキ

甲 文セハリカ

支ヲ領セリ此脉、或ハ二條ニシテ肘窩ニ至テ共
 ニ結合シ、或ハ前位ノ静脉、中静脉ニ結合スル
 腦静脉 ハシリカ、ハ、橈骨皮静脉ノ連幹ニシテ二
 頭筋ノ下縁ニ沿ヒ、次ニ三角筋下大胸筋ノ間ヲ
 上行シ内方ニ向ヒ、鎖骨下ニ深入シ、腋下静脉ニ
 終ル ハシリカ、ハ、鎖骨下ニ深入シ、腋下静脉ニ
 中静脉 ハシリカ、ハ、下臂ノ前面、尺、橈、兩皮静脉
 ノ中間ニ占位シ、頻リニ其兩脉ト交通シ其位置
 負數、及ヒ末端ノ形式ニ於テ、變異甚々多シ、然レ

乙 文メジナ

甲 文ハシリカ

甲又チセハリカ

乙又チセハリカ

一母幹ニ湊合シ肘窩ニ至テ分岐ス極ヲ為ス
 フ多シトス分岐ス一ヲ甲腦靜脈ハシリヤ引ク也
 小稱ス斜ニ上外方ニ向テ腦靜脈ニ會結ス二ヲ
 中王靜脈シ三ジアベインバト稱ス上内方ニ上リ王
 靜脈ニ會結ス向テ肘窩ニ至テ分岐ス一ヲ
 中靜脈時トシテ一個或ハ數個共ニ斜管ヲ以テ
 上内方ニ向テ腕骨皮靜脈ヨリ肘窩ヲ横行シ王
 靜脈ニ終ルアリ而テ其斜管ノ正中或ハ極部
 ヨリ更ニ一支ヲ起シ肘窩ニ於テ上臂靜脈ト交
 通セリ

解音訓蒙 卷之十二
 十一

甲又チセハリカ

甲又チセハリカ

中王靜脈或ハ斜管ノ内端ハ中腦靜脈ヨリ巨大
 ナリ故ニ尋常刺絡術ニ於テ之ヲ選擇セリ然レ
 其直下ニ上臂動脈アリ唯列ニ頭筋ノ腱ノ發
 芽ニ由テ障隔セラレバ且ツ其上下ニ内皮神
 經ノ貴要支アリ注意セサル可カラス

奇靜脈 エ ジ ゴ ン

奇靜脈ハ脊椎柱ノ右側ニ位ス其起原ハ腰靜脈
 腎靜脈或ハ下大靜脈ト交通セリ而テ肘部ヨリ
 横隔ノ大動脈孔或ハ其右脚ノ別孔ヲ透通シ背
 椎ニ沿テ上リ右肺ノ根靜ヲ起シ前方ニ鈞曲シ

解音訓蒙

卷之十二

十一

甲文ヘミエジゴース

系上大静脈ヲ終ル其關係左側ハ胸管大動脈及
 食道又連而升經過中ニ左ノ數支ヲ領セリ
 右肋間静脈スライホクイニテ止スハ時トシテ其上
 位ニ三支共ニ湊合シ一幹ト為シ右無名静脈
 ニ開首ス

食道静脈ハジクハ

右氣管支静脈アライトハ

半奇静脈スベレエジゴースハ二條ニシテ

側ニ位ス其一條即チ下半奇静脈イニハリ

ハ其起原奇静脈ノ式ノ如ク胸腔ニ入ル上

甲文ヘミエジゴース

行シテ背椎ノ真中ニ至リ大動脈ト椎体ノ間ヲ
 横行シ以テ奇静脈ニ結合シ其經過中ニ下位五
 六個ノ左肋間静脈スラフトハ

其一條即チ上半奇静脈シソペリスハ

位ノ左肋間静脈スラフトハ

テ成レリ而テ其末端ハ左無名静脈或ハ下半奇

静脈或ハ奇静脈ニ終レリ

下大静脈オハカハ

下大静脈ハ静脈系ノ上行セル大幹ニシテ

骨盤及腹部ヨリ血液ヲ湊合スル者ナリ其幹

乙カハインリナル

骨盤及腹部ヨリ血液ヲ湊合スル者ナリ其幹

甲文ヘミエジゴース

解音訓蒙

卷之十一

十一

上大静脈及大動脈ヨリモ巨大ニシテ一辨糸
 モ具有セシ其起原ハ腰椎第四片ノ側部ニ於テ
 普通腸骨静脈ノ會合ニ由テ成レリ、脊椎上ヲ上
 大動脈ノ右側ニ位シ、横隔ノ方孔ヲ穿過シ、心
 ノ右房ニ終ル、普通腸骨静脈ノ他、經過中、無數ノ
 分支ヲ領セリ、諸支
 一、下大静脈ノ諸支
 中薦骨静脈、トサクラハ、同名動脈ヲ經過ニ
 隨行シ、下大静脈ノ始端ニ開口ス、時トシテ左普
 通腸骨静脈ニ終レリ、トサクラハ、同名動脈ヲ經過ニ

甲 文サクニスメシア

甲 文ロンバリス

乙 文スヘリマチカ

丙 文キスベシキス

丁 文ラバリ

腰椎静脈 ベロンバルス ハ、其數、各側三條、或ハ四條
 ニシテ、同名動脈ニ隨行ス、而テ其支、互ニ交錯シ、
 加之、普通腸骨静脈、奇静脈、及ヒ半奇静脈ヲ以テ、
 乃チ静脈叢ヲ形成セリ、
 精系静脈 スベルマテッ ハ、其數二條ニシテ、スベル
 リ血液ヲ輸送スル者ナリ、各精系静脈叢 マテッ
 シレキヨリ起リ、同名動脈ニ隨行ス、而テ其右側
 ノ支ハ、下大静脈ニ終リ、左側ノ支ハ左腎静脈ニ
 終ル、
 卵巣静脈 オハリア ハ、廣韌帶中ニ包在スル、卵巣

卵巣静脈

オハリア

廣韌帶中ニ包在スル

卵巣

甲 文レナリス

静脈静起リ其經過ハ前者ニ同シトス
腎腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス
腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス

乙 文カフニラリス

腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス
腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス
腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス

丙 文フレニカ

腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス
腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス
腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス

腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス
腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス
腎静脈腎起リ其經過ハ前者ニ同シトス

甲 文ハバチカ

肝肝静脈肝起リ其經過ハ前者ニ同シトス
肝静脈肝起リ其經過ハ前者ニ同シトス
肝静脈肝起リ其經過ハ前者ニ同シトス

乙 文ホルター
全 文ラクテ
全 文アテリナリス

肝静脈肝起リ其經過ハ前者ニ同シトス
肝静脈肝起リ其經過ハ前者ニ同シトス
肝静脈肝起リ其經過ハ前者ニ同シトス

甲 文 ス プ レ ニ カ

乙 文 セ 三 カ ノ ヲ オ ル

丙 文 コ ロ ナ リ ア
全 ウ ガ ス ト カ ノ ヲ オ ル

丁 文 カ ス ト ロ モ ノ ヲ イ カ
テ キ ス ト ラ

送スルノ血液共ニ混和シ、肝静脈ノ扶助ニ由リ

全身ノ血行ニ送歸ス

脾静脈脾静脈ニスプレニキ、ハ、小支ニシテ其數同名動脈

未梢ノ分歧ニ適シ、乃チ其動脈ニ隨行シテ門脈

ニ終ル

上腸間膜静脈上腸間膜静脈テリッスベリニセシ、ハ、同名動脈ニ

隨行シ、脾静脈ト會合シ、以テ門脈ノ一部ヲ成ス

冠静脈冠静脈ニコロナリ、ハ、胃ヨリ起リ、脾静脈、或ハ門脈

ニ終レリ

右胃腸網静脈右胃腸網静脈ピライトカストロハ、上腸間膜静脈

甲 文 セ ス ナ カ

乙 文 セ 三 カ ノ イ ナ リ オ ル

丙 文 ド ル ス パ イ ナ リ ス

或ハ門脈ニ結合セリ、精細ニ由テ成ル

脚静脈脚静脈ベリスチク、ハ、胆囊ヨリ起リ、亦ハ門脈ニ交

結ス

下腸間膜静脈下腸間膜静脈ニテリックベリニセシ、ハ、同名動脈ニ

隨行シ、脾静脈、或ハ上腸間膜静脈ニ終レリ

門脈及ヒ其衆支ハ更ニ辨ヲ具有セス

脊椎柱静脈

脊棘叢脊棘叢ドールンレキニナハ、静脈ノ羅網ニシテ、椎

ノ支及ヒ棘狀突起ヲ包擁シ、而テ背筋ヨリ、數條

ノ静脈ヲ領収ス又屢吻合支ニ由リ、内脊髄叢、椎

甲
フレキユス、スパイナレフ
インテニユス

乙
クロギキ、チテ
ステリオル

肋間、腰椎、薦骨等ノ静脈、及ヒ背表ノ静脈等ト相
 交通ス。
 内脊髄叢インシトラスハ、静脈ノ交錯スル
 者ニシテ、即チ網狀ヲ為シ、脊椎柱ノ管内ニ在テ、
 厚髓膜ト、脊椎骨ノ間ニ在リ、其數四條ニシテ、前
 后ニ位ス、而テ脊椎柱ノ全徑ニ展延シ、屢横静脈
 ニ由テ彼此互ニ相交通シ、即チ其前縦静脈アリン
 ナル、ロメンチ、ハ、椎体ノ兩側ニ位シ、椎弓ノ帶
 ニ彎曲シ、以テ弓列ノ景况ヲ呈シ、椎体ニ對シ、椎
 靱帶下ニ於テ、横行ノ静脈ニ由テ、左右互ニ交通

甲
ウ、バシ、ウルテ、テ

乙
ウロギキ、チテ
ステリオル

シ、此レニ由テ、椎体ノ内ヨリ、版障静脈ジプロイン
 スヲ受ケリ、其後縦静脈ポジステリオル、ベル、ロ
 前者ヨリモ、細小ニシテ、椎弓ノ兩側ニ位シ、横行
 支ヲ以テ、互ニ交通シ、又側支ヲ以テ前者ト相通
 ス。
 内脊椎叢ノ間錯ハ、縦横兩静脈ノ分子結交ノ數
 ニ應シテ、増減アリ、此叢ハ、脊椎及ヒ其被膜ヨリ
 數箇ノ静脈ヲ領シ、又椎間孔ヲ穿過シテ、椎、肋間、
 腰椎、薦骨等ノ静脈、及ヒ枕骨ノ静脈洞ト相通ス。
 普通腸骨静脈コモン、イン、ス

解剖訓蒙

卷之十一

三十一

普通腸骨靜脈ハ、薦腸關節ニ對シ、内外腸骨靜脈ノ會合ニ由テ成レリ、右普通腸骨動脈ノ下ヲ上行シ、腰椎ノ第五片ニ達シ、其中線ノ稍々右側ニ於テ、左右聚會シテ、下大靜脈ト為ル而テ、其右側ノ者ハ、左側ヨリモ短ク、且ツ直行ナリ、初メ同名動脈ノ後部ニアリ、次ニ其外側ニ廻ル、其左側ノ者ハ、同名動脈ノ内側ニ布置ス、此脈ハ左右共ニ無辨ナリ

内腸骨靜脈 インテルナール

内腸骨靜脈ハ、其布置、同名動脈ノ分布ニ齊シ、唯

其后位ニ在ルハ、乃チ薦腸關節ト、一線ニ上行シ、普通腸骨靜脈ニ終ル、臀筋、腸腰、側薦骨、鎖孔、及ヒ坐骨等ノ諸筋脈毎ニ、二條ノ副行靜脈アリ、各會合シテ、遂ニ單管ト為リ直ニ茲ニ會終ス、腸腰靜脈ハ、側薦骨、及ヒ腰椎靜脈ト聚會シ、屢、普通腸骨靜脈ニ終ル、側薦骨靜脈ハ、中薦骨靜脈ト間錯シテ、薦骨靜脈叢ヲ造成ス、而テ此叢、痔脈叢ト相通ス、直腸、膀胱、陰具等ノ諸靜脈ハ、其數極テ多ク、且ツ大ナリ、故ニ往々大積ナル、間錯叢ヲ為セリ、痔脈叢ハ、直腸ヲ圍擁シ、殊ニ其下

部ニ於テ著明ナリ、而テ薦骨叢、及ヒ攝護叢ト相
通ハ又此叢ヨリ、下腸間膜靜脈、内腸骨靜脈、及ヒ
陰具靜脈等ニ進行ノ靜脈ト、相交通ハ此叢ハ屢
靜脈ノ驚張スル地位ニシテ、所謂痔血、即チ痔疾
ヲ發起スル者是ナリ

甲 アキユス、ハロス、タナキ、マ

攝護叢 アキユス、ハロス、タナキ、マ、間錯且ツ大積ナル、靜脈ノ

羅網ニシテ、尿道ノ膜部、膀胱頸、攝護腺、及ヒ精囊

ヲ圍擁シ、頻リニ膀胱叢ト交通シ、痔脈叢ト結合

シ、遂ニ内腸骨、及ヒ陰具靜脈等ニ終ル

乙 プエテ、ワジヤイナリス

子宮腔叢 ユテロ、ワジヤイナリス、ハ、男子ノ攝護叢ニ均

甲 ヲエテリ子

シ、乃チ膻及ヒ子宮ヲ圍擁シ、卵巢及ヒ陰具靜脈

ト相通ス、又子宮靜脈 ユテリス、ハ、扶助ニ由テ

内腸骨靜脈ト交結ハ此叢ノ靜脈、妊娠ノ間、頗ル

膨大シテ、大積ナル、子宮洞 ユテリス、ヲ造為ス、然レモ、其迂

曲及ヒ經過ニ至ラハ、動脈ト同シカラス

乙 プ、ウエシカリス

膀胱叢 ウエシカリス、ハ、膀胱ヲ圍擁シ、殊ニ其底部

ニ於テ著明ナリ、而テ攝護或ハ膻叢ト交通ハ此

叢ヨリ、數條ノ靜脈ヲ起シ、以テ内腸骨靜脈ニ終

丙 ヲエシカ

陰具靜脈 ウエシカリス、ハ、陰莖ノ深在動脈、及ヒ會陰ノ

陰具靜脈 ウエシカリス、ハ、陰莖ノ深在動脈、及ヒ會陰ノ

動脈ニ伴行スル靜脈ヨリ成リ同名動脈ノ經過
 ニ隨行シ攝護及ヒ痔脈叢ト交通シ内腸骨靜脈
 ニ終ル此脈婦人ニ於テハ庭孔及ヒ會陰ヨリ同
 比ノ起根ヲ取リ以テ脛叢ト交通ス
 陰莖勃起組織ヨリ發起ノ靜脈ハ陰莖ノ深在動
 脈ヲ副行スル處ノ靜脈ヨリモ巨大ニシテ且ツ
 其經過數般タリ乃チ海綿體ノ靜脈ハ龜頭底ヨ
 リ發出シ湊合シテ陰莖背靜脈（トリスルサレベ
 ンフスゼイペニ
 スト為リ陰莖背溝ニ沿ヒ羞骨弓下ニ至テ三角
 靱帶ヲ穿過シ分歧シテ二支ト為リ攝護叢ニ終

甲
トリスルサレベニ

甲
トリスルサレベニ

甲
トリスルサレベニ

乙
トリスルサレベニ

蜂窩體ヨリ發起ノ靜脈ハ陰莖下溝ヲ出テ其
 外側ヲ廻リ陰莖背靜脈ニ交結ス（廷孔背靜脈
 ルド
 背靜脈ニ同シ而シテ脛叢ニ終ル
 外腸骨靜脈ハ股靜脈ノ連幹ニシテ下肢ヨリ血
 液ヲ湊合シ其始端ハホトハレト靱帶ノ下方ニ
 於テ同名動脈ノ内側ニ起リ其後側ニ上リ内腸
 骨靜脈ト會合シテ普通腸骨靜脈ト為ル此脈其
 始端ニ於テ廻旋動脈及ヒ上腹動脈ニ副行スル

二條ノ静脈ヲ領ルル又ノ上肢静脈ニ備テ
 骨節下肢深在静脈ヨリハ、深在動脈ニ、親ク順次ニ膝膕動
 脈及大股動脈ノ他ハ、各動脈皆テ二條ノ伴行静
 脈ヲ有ス、其間久別ニ横支ヲ以テ互ニ交結ス
 膝膕静脈^甲ハ、前後小股動脈ニ伴行ス
 此静脈ノ會合シテ成ル者ナリ、其對動脈ノ後ニ
 位シ之ト伴行シ大内送筋ヲ穿過シ、乃チ股静脈
 ノ名ヲ得タリ、蓋シ骨節^乙ニ交結セ
 股静脈^乙ハ、モ^乙ラ^乙ハ、初メ同名動脈ノ後部ニ在リ

甲ウ、ホ、ブ、リ、テ

乙ウ、ヘ、モ、ラ、リ、ス
全ウ、ク、リ、ユ、ラ、リ、ス

上行ノ間ニ於テ漸次ニ其内側ニ偏タヨリ、上テ
 ポ^一パ^レト^ト靱帶ニ達シ、外腸骨静脈ト為ル

下肢淺在静脈^ソベ^レヒ^シヤ^ール^ベー^ンス、オ^フス、ゼ^イ、
 口^ニヒ^キス、ト^レミ^チト

下肢淺在静脈ハ、其位列允テ叢状ヲ為セリ、其布
 置、皮膚ニ関涉ス、其他ハ、上肢ニ於テ、論スルカ如
 シ爰ニ、主要ナル長短ノ二幹アリ、是レ血液ヲ淺
 表ノ静脈ヨリ湊合シ、深在ノ主幹ニ輸送スル者
 ニシテ、共ニ母静脈ト稱ス

短母静脈^ショ^レト^トサ^ヘノハ、足背ノ外部ヨリ、數支

ヲ以テ起リ、外踝ノ後部ヲ過キ、脚背ニ上リ、二頭

甲ウ、サ、ハ、ナ、ハ、ル、パ
全ウ、サ、エ、キ、ス、テ、ル、ナ

腓腸筋ノ頭間ニ陥没シ膝膕靜脈ニ終ル此脈淺表ノ數靜脈ヲ以テ足ノ外部脚背及ヒ其外部ヨリ血液ヲ湊合ス尚オ數支ヲ以テ頻リニ長母靜脈ニ交通ス

長母靜脈 甲 ウサ、ハ、ロ、ン、カ、 ウ、サ、イ、ン、テ、ル、ナ ロ、ン、ヅ、ナ、ハ、 前者ヨリモ大積ニシ

元足ノ後内側ノ數支ヨリ起リ内踝ノ前部ヲ過キ、小腿骨ニ沿ヒ膝蓋ニ達シ後方ニ廻リ次ニ股ニ上リ母孔ヲ穿通シ股靜脈ニ終ル此脈經過中ニ足部内側ノ靜脈脚ノ諸靜脈股ノ總靜脈外陰具靜脈及ヒ許多ノ腹部靜脈等ヲ領セリ

肺靜脈 ポ、ル、モ、ナ、 レ、ベ、ル、ン、ス

肺靜脈ハ四個ノ短ニシテ大ナル幹ナリ而テ其二幹ハ各肺ヨリ起リ鮮紅ノ血液ヲ心藏ニ輸送ス即チ左ノ如シ

右肺靜脈 リ、イ、ト、ポ、ル、ス、モ、ナ、 ハ、 左側ノ者ヨリモ長

久而テ右肺ノ根蒂ヨリ起リ右肺動脈下ヲ過キ、上大靜脈右房及ヒ大動脈ノ後部ニ至リ左房ニ終ル

左肺靜脈 リ、フ、ト、ポ、ル、ス、モ、ナ、 ハ、 左肺ヨリ起リ下行

大動脈ノ前面ヲ過キ左房ニ終ル

水脉

甲
リンセント、システム

水脉系リンセント、システムハ、脉管、腺状体、及ヒ含有ノ水

液ヨリ成レリ、其脉管ヲ水脉リンセント、システムト云ヒ、

腺状体ヲ水脉腺グリシハチクト云ヒ、之ヲ概シテ、

リンハチクト稱シ、而テ脉管ト、腺状トニ含有ス

ル液ヲ水液リンセントト稱ス

腸ノリンハチクヲ乳糜管ラクトト云ヒ、其内位

ニ、充含ノ液アリ、之ヲ乳糜カイトト稱ス

水脉リンセントハ、凡テ乳養動物、鳥魚爬虫ニ於

テ存在スレド、下等ノ動物ニ於テハ、缺込セリ、而

乙
リンセント、システム
スセルス
リンセント、システム
ハチク

テ其所在ハ、血液領収ノ器械、及ヒ組織ニ於テ殊
ニ目撃セリ、然レド、腦脊髓ノ實質、及ヒ眼球内耳
ニ於テハ、未タ之ヲ見ス、尚才胞衣、及ヒ其被膜ニ
於テモ、亦然リ

水脉系ハ、血脉系ノ附属ニシテ、諸器及ヒ諸組織

ヨリ、水液ヲ聚収ス蓋シ此液ハ、血漿ノ滲漏分ニ

シテ、組織ノ不用分ナリ、而テ腸ニ於テハ、食物ヨ

リ、榮養分ヲ吸収ス斯ク受納セシ液ハ、小管ヨリ

漸次ニ大管ニ輸送シ、其經過中ニ、數個ノ水脉腺

ヲ通行ス、遂ニ二条ノ大幹ニ湊合ス、是レ所謂胸

管右水脉管ニシテ水液ヲ靜脈ニ注輸スル者ナ
 水脉系ハ深淺ノ二列アリ其深在ノ列ハ同所ノ
 血脉ニ隨行シ淺在ノ列ハ皮下及ヒ諸器ノ被膜
 下ニ彌蔓ス
 主要ノ水脉ハ其數動靜ニ脉ヨリモ多シ然レモ
 其形狀甚タ微細且ツ纖長ニシテ宛モ絲ノ如ク
 而テ透明ナリ故ニ色素ノ溶液ヲ注セザレハ容
 易ニ辨知ス可カラス而テ其管内ニ許多ノ瓣ヲ
 具有ス此瓣ノ構造ハ靜脈ノ者ノ如ク水液ノ逆

流ヲ防遮シ且ツ其所在毎ニ寸隔ニ一對アリテ
 其後部ニ小灣アリ故ニ水脉膨脹スルハ累々
 トシテ連珠ノ状ヲ呈セリ
 起根ノ形式ハ甚タ不明ナリ是レ其細微ニシテ
 透明ナルカ故ナリ且ツ色素ノ溶液ヲ注射スル
 モ大支ノ衆瓣對向遮閉シテ其流注ヲ障防スル
 ニ由ルナルヘシ然レモ察思スルニ其細管血管
 ノ毛細管ト間錯シテ緻網ヲ成シ發起スルニ似
 タリ然レモ兩細管互ノ交通ハ有ラサルナリ腸
 ノ毛茸ニ於テハ水脉細管ノ頭閉塞シテ一個ノ

棒状、即千雷木ノ如キ管ヲ以テ、發起スルヲ顯然
 タリ、而テ水脉細管ハ、凡テ血脉細管ヨリモ、稍々
 大ニシテ、亦夕辨ヲ具有セス
 總テ主要ノ水脉管、大幹ニ達スルノ間處々ノ幽
 窩按スルニ、腋窩、及ヒ空洞、
 按スルニ、胸腔、ニ、適在
 ノ水脉腺ヲ透過スルヤ、彼ノ水脉腺ニ
 近ツク處ヨリ、分歧細別シテ、其腺ニ入り、又夕會
 合シテ大支ト為リテ、他側ニ出ス、故ニ透入ノ支
 ヲ、**輸入管**左スヘレント、ト稱シ、**輸出管**右スヘレント、ト稱ス、而テ輸出管ハ、輸入管ニ比ス

乙甲

ハツインレンチア
ハツエレンチア

甲
グリニキクカ
グロパート

レハ、巨大ニシテ寡少ナリ
 水脉ノ構造ハ、血管ニ似タリ、殊ニ静脈ニ類ス、コ
 ルリケル氏ノ説ニテハ、其外層ニ於テ、筋織組ノ
 縦小束ヲ含有スト云ス
 水脉腺グリニキクカハ、適硬ナル、淡紅ノ体ナリ、其
 形状、壓平セシ圓球、或ハ橢圓球ニシテ、麻子大、或
 ハ扁桃大ニ至リ、其位置、凡テ大血管ノ經過ニ隨
 テ散布シ、胸腹内ニ會簇ス、蓋シ頸、腋窩、鼠蹊、肘窩、
 膝窩ニ於テモ亦然リ
 水脉腺ノ構造ニ至テハ、未夕詳明ナラス、然レモ

輒今ノ考究ニ由テ之ヲ觀ルニ、數多ノ胞、會簇シ
 テ結成セリ、而テ其胞、輸入管ノ末端ト、輸出管ノ
 起端ト相ヒ連繫シ、以テ互ニ交通ス。斯ノ如キ、數
 多ノ胞、血管富有ノ結締織中隔ノ間隙ヲ填充ス、
 而テ每胞ノ性体ハ、單胞腺、及ヒ攢簇腺ニ類似ス、
 是レ疑ラクハ、水液球ノ基元ナラン、
 水液^ハリン^ノ性質ハ、理化ニ學的ニ於テハ、殆ト血
 漿ニ齊シ。此液ハ、水脉腺ニ通過シ、后ハ、數多ノ小
 体ヲ受ク之ヲ、水液球ニシテ、^至微ノ顆粒含核セルニシテ、血液ノ白血球ニ
 似タリ。又其性体ニ於テハ、水脉腺ノ胞形ノ含核
 セルニ均シ。此ニ由テ、之ヲ觀レハ、水脉腺ヨリ、由
 來スル者ナラン。腸ノ水脉、未タ腸間膜腺ニ至レ
 サル前部ニ於テ、同種屬ノ數球ヲ含有セリ、是レ
 疑ラクハ、單胞腺、及ヒ攢簇腺等ヨリ、發生シ來ル
 者ナラン。

甲
 リンハ
 全ホ
 ワイト
 ブル
 ド

乙
 リンハ、
 グロ
 ビユ
 ス
 全ホ
 ト
 コル
 ズ
 ス
 ク
 ル
 ス

似タリ。又其性体ニ於テハ、水脉腺ノ胞形ノ含核
 セルニ均シ。此ニ由テ、之ヲ觀レハ、水脉腺ヨリ、由
 來スル者ナラン。腸ノ水脉、未タ腸間膜腺ニ至レ
 サル前部ニ於テ、同種屬ノ數球ヲ含有セリ、是レ
 疑ラクハ、單胞腺、及ヒ攢簇腺等ヨリ、發生シ來ル
 者ナラン。
 十數年前、醫林ニ公行セシ、密兒東戎私欲ノ考究
 ニ從ヘハ、水液球、溶解シテ、含有ノ核、血球ニ化成
 スル者ナリト此說、未タ究メサル所アリト雖也、
 水液球ノ經常ニ血中ニ灌流シ、以テ赤血球ノ原

甲 カイリユス

基ヲ造成スルニ於テハ、此說確然タリ
 乳糜ルカイハ、腸管ノ水液ニシテ食物ヨリ吸收セ
 心榮養分ノ混セシ者ナリ、殊ニ許多人脂肪球浮
 游シテ、其色、尋常乳白ナリ、是故ニ腸ヨリ胸管ニ
 輸送スルノ水脉ヲ乳糜管ラクトト稱セリ

水脉系幹

水脉系ハ、主要ナル二幹アリ、其一ハ、長且ツ大ニ
 シテ、胸管ダトト稱ス、他ハ、最モ小ニシテ、右

水脉管ライト稱ス、他ハ、最モ小ニシテ、右

胸管ダトト稱ス、他ハ、最モ小ニシテ、右

甲 ドクモス、トシキユス
 全 ド、ロリヘル
 全 ド、リニハチキユス、シ
 全 ニステル

甲 レセ、フトキユリユキリ
 全 レ、ベキユイチ
 全 サツキユリス、テクモユス

第二ノ腰椎ノ前面ニ於テ、二條ノ腰水脉幹ト、腸
 水脉幹ト、會合シテ起ル者ナリ、而テ其腰水脉幹
 ハ、骨盤及ヒ下肢ノ水脉ヨリ湊來シ、腸水脉幹ハ、
 内臓ノ水脉ヨリ起坐ス

腸水脉幹ノミ、又ハ腰水脉幹ノ一條或ハ二條ト
 共ニ聚合シテ、長圓ナル廣脹部ヲ造為セリ之ヲ

乳糜囊レセト稱ス、此囊ノ大サ、時々

變換スレ、凡概子其長徑ハ、一「イン」チ乃至二「イン」

チ其幅度ハ一「イン」チノ四分一タリ

胸管生起ノ後、横膈ノ大動脈孔ヲ穿過シ、脊椎柱

前面より上より大動脈ト、奇靜脈ノ間、即チ食道ノ
 後部ニ在テ、背椎第四片ノ處ヨリ、左側ニ倚リ、大
 動脈弓ノ後部ヲ過キ、食道ト、左鎖骨下動脈ノ間
 ヲ上リ、頸椎ノ第七片ニ達シ、前外下方ニ向テ鈎
 曲シ、乃チ左鎖骨下靜脈ト、内頸靜脈ト、結角ニ終
 斷蓋シ、此處、一對ノ瓣ヲ具シ、以テ靜脈血ノ進入
 ヲ抗拒セリ。
 胸管、起根ニ於テハ、殆ト鷲管ト大ニ然レテ、上行
 經過ノ間、漸次ニ狹窄シ、殆ト真中ニ至テ、再ヒ
 擴張ス、而テ此擴張、稀キニ甚ク著明ナルヲアリ

甲
 ドクキキニス、
 ドクキキニス、
 スミノル

又其經過、真直ナラス、稍ヤ迂曲ス、或又其中間、細
 分シテ、再ヒ結合スルヲアリ、管内ニ數瓣アリ、殊
 ニ上部ニ多シ、然レテ、水脈ニ比スレハ、一般ニ寡
 數ナリ。
 胸管ハ、横膈以下、体ノ諸水脈、及ヒ左側ノ胸、頭、頸
 等ノ水脈、及ヒ左上肢ヨリ、水脈ヲ領セリ。

右水脈管ヲイト、クリンハ

右水脈管ハ、其丈々殆ト半イン子其幅殆ト一口
 インニシテ、胸管ト同式ヲ以テ、体ノ右側ニ終ル
 此管、胸、頭、頸ノ左側、及ヒ右上肢ヨリ、諸水脈ヲ領

甲
乙
丙

頭頸水脈管、各處より起り、群腺、ハ屯聚ニ終ル、
 而テ是、其、輸出管、以テ、次列ノ屯聚ニ入り、斯
 々再三反覆シテ、遂ニ一二人幹ト為リ、頭根ニ於
 テ、胸管及、右水脈幹、終ル、又、左、胸管、及、左
 頭腔水脈

腦實質ニ於テ、未タ一條ノ水脈ヲ目撃セズ、然
 レ、薄腦膜ニ至テハ、頗ル許多内リ、其經過ハ、主
 要ノ静脈ニ隨行シテ、動静ニ脈ト偕モ、頭腔ノ

孔竅ヲ外出セリ

頭顱外部ノ水脈

後頭水脈ハ、頭ノ後部ヨリ起來シテ、後頭腺 オキ
ピタ

終ル、耳後腺中、最モ小ナル者、四個或ハ五個、乳頭

部ノ近傍ニ於テ、胸骨乳頭筋、及ヒ僧帽筋上ニ散

布ス

顱顱水脈 ラムポラ ハ、頭側ヨリ起來シ

テ、耳前腺 アンテリ ニ終ル此腺、二個或

ハ三個アリ、耳前ニ於テ、耳下腺上ニ散布ス

甲
乙

丙

丁

解列

顔面水脉

淺在顔面水脉

ソヘルロスハハ額眼臉鼻唇

頰及口腮ヨリ起來シテ

下^甲腭水脉線ソップマキン

ハチウ、グニ終ル此腺、六七個ハ、

下腭腺上ニ在リ

テ其部ヨリ、又夕水脉ヲ受納セリ

深在顔面水脉

ハチウ、グニ終ル此腺、六七個ハ、下腭腺上ニ在リ

窩、鼻腔、口蓋、口壁、咽頭ノ上部、耳頭腔ヨリ起來シ

テ内^乙腭腺

シランテル、グナール、マキニ終ル内腭腺ハ、

其數、五個乃至十個アリ、咽頭ノ側壁、即チ耳下腺

ト、下腭枝トノ間ニ位ス

田
グ、ア、マ、キ、シ、ラ、リ、ス

乙
グ、マ、キ、シ、ラ、リ、ス、イ
ン、テ、ル、ナ

甲
グ、セル、ビ、カ、リ、ス、ッ
ペ、ル、ヒ、キ、ト、レ、ス

乙
ア、レ、キ、ユ、ス、ジ、ヤ、ラ、リ
ス、イ、ン、テ、ル、ニ、ユ、ス

舌水脉 ハリンギアールリン ハ、舌ノ動靜ニ脉ニ隨
行ハ其經過中ニ、三個或ハ四個ノ腺ヲ透通セリ

頸水脉

淺在頸水脉

ソペルビカニ終ル此腺中、小ナル者五個、或

前後ヨリ起來シテ、後頭、耳後、耳前、及ヒ下腭等ノ

水脉腺ノ輸出管ト共ニ、群聚シテ、淺在頸腺

ハ六個、頸ノ上部、胸骨乳頭筋上、或ハ其後縁ニ布

置ス

深在頸水脉

ハ二十個以上ノ

甲
トロンキユスハジキ
ヲリス

脈鏈トロンキユスハジキ元内頸静脈及ヒ頸動脈ノ經過ハ順列
シ、腋窩ノ水脈ト交通ス其經過中ニ耳前下脣内
脣舌及ヒ淺在頸等ノ水脈腺ノ輸出管ト喉頭咽
頭、甲狀腺、氣管、食道、頸筋等ノ水脈ヲ領セリ
深在頸水脈腺ノ輸出管、湊合シテ、甲頸水脈幹ジヨギ
トシテ、トロンキユスハジキト為リ、其側ニ應シテ、胸管、或ハ右水
脈管ニ終ル

上肢及ヒ胸外部ノ水脈

上肢ノ水脈ハ、深淺ノ二列アリ、各動靜ニ脈幹ノ
經過ニ隨行セリ

淺在水脈

ハ、トロンキユスハジキノ主要ナル者ハ、

上肢ヲ上行シテ、内側ニ向ヒ、而テ多クハ、上臂、腦

ニ静脈ノ經過ニ隨行ス

一、二ノ水脈、内髁ノ前面ニ於テ、水脈腺ヲ透過ス、

其他殆ト皆ナ、腋窩ノ下列水脈腺ニ聚合シ、又或

ル他ノ水脈ハ、腦静脈ト伴行シ、肩胛水脈ト共ニ、

鎖骨下ニ於テ、腋窩水脈腺ニ會終ス、或ハ頸腺ト

交通スルヲ予リ

深在水脈ジヨギハ、トロンキユスハジキハ、動脈及ヒ伴行静脈

ノ經過ニ隨行シ、肘腋部ニ於テ、三個以上ノ水脈

ノ經過ニ隨行シ、肘腋部ニ於テ、三個以上ノ水脈

腺ヲ透過ス腋下水脉腺ニ終ル
 胸部ノ淺在水脉ハペルヒキ上腹部及ヒ胸
 女皮下ヨリ起レリ而テ其深在水脉スジヒルハ
 乳腺、胸筋、及ヒ近傍ノ諸筋ヨリ起テ多ク外上
 方ニ向ヒ、腋窩水脉腺ニ會終ス、蓋シ其中一ニハ
 鎖骨下腺ニ終ル、
 腋窩腺ハ其數ハ個ハニ個ナリ、
 其位置、腋窩ノ弛緩窩織、及ヒ脂肪内ニ包在ス、
 而テ上肢、及ヒ胸外部ノ諸水脉ヲ領セシ其廣張
 ハ、腋窩ノ下部ヨリ、鎖骨ニ達シ深頸水脉腺ト交

甲 アキシラリス

甲 トロンキユスリンハ
ニキユス、シググラヒス

乙 ダイニテルコスタリス

ダソジアヌキナボス
テリオル

通ス是ヨリ輸出管ヲ以テ鎖骨下静脈ニ隨行シ、
 遂ニ鎖骨下水脉幹ハトクテアイン、リニ結合
 ス此幹ハ胸管或ハ右水脉管ニ終ル者ナリ

胸腔水脉

肋間水脉ハニハ、胸、腹、横膈、胸
 膜、背筋、及ヒ脊髓管ヨリ起リ、同名静脈ノ經過ニ
 順列シテ、肋骨頭ノ近傍ニ至リ、十五以上ノ肋間
 腺ハイニテルコスタヲ通過ス而テ是ヨリ輸出管
 ヲ以テ、多クハ胸管ニ終ル

後縦膈腺ハボステリオル、シ、ハ、兩側ノ肋間腺

間ニ位シ其腺ト互ニ交通シ其數殆ト十二個ニシテ横膈心囊及ヒ食道等ノ水脈ヲ領セリ此腺ヨリ輸出ノ管一半ハ胸管ニ終リ一半ハ氣管支及ヒ水脈腺ニ終ル

甲
インテリキルマムマリ
トリシハチクウセリマ

乙
グンジアスチナア
ンテリオルス

前縦膈水脈アンテリオルハチクウセリマノ前壁横膈心囊膈腺ヨリ起リ又ヒ肝ノ上面ヨリ起リ肝繫韌帶ヲ穿過シ共ニ皆十前縦膈腺アンテリオルグレンジアニ至ル而テ其輸出管ハ胸管或ハ右水脈管ニ終レリ
前縦膈腺ハ其數殆ト二十個ニシテ内乳血管ノ

經路心囊ノ上及ヒ心ノ底面ヨリ起リシ大血管ノ前面ニ位ス

肺水脈ボルモナリトハチクウセリマハ深淺ノ二列アリ其

淺在ノ列ハ肺胸膜下ニ在テ間錯網様ヲ為シ肺

根ニ向ヒ深在ノ水脈ト會合シ其深在ノ列ハ肺

血管及ヒ氣管支ノ支別ニ隨テ徑過シ遂ニ數個

ノ細小ナル肺腺ホルモナリトヲ通過ス氣管ノ極

部氣管支及ヒ肺根ニ於テ二十個以上ノ氣管支

腺ブルグロニキスアリ此腺ハ肺氣管支及ヒ氣管

心臓食道等ノ諸水脈ヲ領セリ此腺ハ分外ニ大

甲
グホルモニカ

乙
クウエサリナ

十、且ツ、嬰兒ノ皮ハ、其色及、堅實、他處ノ水脉
 腺ニ異ナラスト雖、生長スルニ及テ、漸徐ニ灰
 白ヨリ、遂ニ黒色ニ變ス、蓋シ是レ黒素ノ細分子
 ノ分着ニ由ルナレハシ、又屢、石灰或ハ結核ノ分
 着部ト為レリ、其輸出管ハ、左側ニ於テハ、胸管ニ
 終リ、右側ニ於テハ、共ニ湊合シテ、甲氣管支縦隔幹
乙チトレハ、トメシク、ト為リ、無名靜脉ノ後部ヲ上
 リ、右水脉管ニ結合ス、
 下肢及ヒ骨盤水脉

淺在水脉

レソハ、ルヒシアセルル、リハ、足背ヨリ起リ、

甲
トロキユスブロン
コメジアスチナ

甲
ハハハハハハ

乙
ハハハハハハ

田
ダボフリデー

乙
クイレゴイナリス
スレヒシアリス

長母靜脉ノ經路ヲ上行シ、淺在鼠蹊腺ニ終ル蓋
 シ足蹠ヨリ起ル者アリ、短母靜脉ニ伴行ス、其二
 部ハ、足背ノ者ニ交結シ、他ノ一部ハ、膝膈腺ニ終
 レリ

深在水脉

クジ、ク、ス、セル、ル、ス、ハ、チ、ハ、同所ノ血管ニ隨行

二個乃至四個ノ膝膈腺

ル、ボ、グ、ラ、リ、ン、テ、ズ、一、ヲ、穿、過、シ、

遂ニ深鼠蹊腺ニ終レリ

淺在鼠蹊腺

ゴ、ソ、イ、ベ、ル、ヒ、ク、ラ、イ、ズ、ハ、其數六個乃

至十二個ニシテ、股筋筈ノ母孔ニ位シ、外方ニ向
 ヒ、鼠蹊ニ廣布ス而テ、下肢上行淺在ノ水脉下膜

解

部腰腎ノ淺在水脉、及ヒ陰莖、陰囊ノ外皮或ハ陰
唇、延孔等ノ水脉ヲ領セリ

甲
グインゴイトール
ス、パロヒンダー

深在膵腺

ナリ、ブ、グインゴズイハ、其數二個或ハ三

個ニシテ、股血管ノ上ニ布置ス、而テ下肢深在水
脉ヲ領シ、且ツ淺在腺ト交通ス

乙
グイリククエニス
テルナ

膵腺ノ

輸出管ハ、股ノ下ヲ上行シテ、外腸骨腺

エキス、テルナル、イニ終ル、其腺數ハ六個以上ニ
シテ、纒々鏈狀ヲ為シ、外腸骨血管ノ經過ニ布置
ス、而テ尚オ腸内ノ前側部ヨリ、水脉ヲ受ケリ

丙
グイリククエニス
テルナ

内腸骨腺

イン、テルナル、イハ、會陰、陰莖、延孔、或

陰囊或ハ陰唇ノ後部、膀胱攝護腺、精囊、或ハ腔

子宮腎部ノ諸筋、直腸等ノ清水脉ヲ領収セリ、而

テ其腺數ハ十二個以上ニシテ、骨盤ノ側部、内腸

骨血管ノ周圍ニ布置シ、薦骨ノ前面ニ於テ他側

ノ同腺及ヒ外腸骨腺ト交通ス

腹腔水脉

腰腺
グロ、ン、バ、ズ、イ、ハ、其數殆ト二十五個ニシテ、脊

柱及ヒ大血管ノ各側、横隔ノ起根、兎筋、及ヒ腰方

筋ノ上ニ布置シ、他側ノ同腺ト頻リニ交通シ、而

テ内外腸骨腺ノ輸出管ハ、其他、腰、腎、輸尿管、副腎

甲
グロ、ン、バ、ズ、イ、ハ、

甲
ドロキユスガシハチ
キユスロニバリス

甲
ハハサラクテ
ハキリヘラ

及内畢丸或公卵巢等ノ諸水脉ヲ受テ乳管
腰腺ノ輸出管ハ腹部ノ各側ニ於テ共ニ湊合シ
腰水脉幹ハ心ノ下ニ於テ乳管ニ合シ又屢細小
數支ト為リテ胸管或ハ乳糜囊ニ終ルリ
胃水脉ハ胃ノ血管ニ隨行シ
細小ノ數腺ヲ經過ス而シテ小灣及ヒ大灣ノ右
側ニ來ル者ハ腸間膜腺ニ終リ左端ヨリ來ル
者ハ脾水脉ニ終ルリ
小腸ノ水脉ヲ帶シ乳糜管ニ合シ是レ其
充滿スル乳糜ヲ為シ乳白色ヲ呈スル力故ナ

甲
ダメセンテリカ

乙
ダメツコリカ

リ而テ腸管ヨリ起リ腸間膜層ノ間ニ進ミ一
三十餘ノ腸間膜腺メセンテリスヲ通過ス此腺
不正ノ三列ニ位ス其第一列ハ最モ小腺ニシテ
其數最モ許多ナリ第三列ハ最モ大腺ニシテ其
數鮮シ其輸出管ハ内臓腺ニ終レリ
十個ノ結腸網腺グラソコリスヲ通過シ多クハ上
腸間膜腺ニ終ル而テ下行結腸ノ大部分ヨリ來
ル者ハ左腰腺ニ終レリ
脾腺ノ水脉ハ脾静脈ノ經過ニ隨行シ細小ノ數
腺ヲ通過シテ内臓腺ニ終レリ

腺ヲ通過シテ、内臓腺ニ終レリ

肝上面ノ水脉ハリハチ、ク、カ、セ、ル、ス、オ、フ、セ、イ、

ル、ハ、既ニ示ス、カ、如ク、多ク、拘舉、鞏帶ヲ、穿過シテ、

前縦隔腺ニ交結ス、而テ、下面ヨリ、來ル者、及ヒ、深

在水脉スセル、ハ、鮮小ノ、肝腺ヲ、穿過シ、肝ノ、横

溝ヲ、發シ、胃ノ、小灣ノ、水脉ト、湊合シテ、腸間膜腺

ニ終ル

内臓腺グフ、ン、ズ、ク、ハ、其數十五個ヨリ、二十個ニ

シテ、十二指腸、脾ノ、後部、大動脈内臓軸、上腸間膜

動脈、及ヒ、門脈ノ、上ニ、位シ、各側ノ、腰腺ト、交錯ス

甲
グク
トリ
アカ

甲
ト
ロ
ン
キ
ユ
ス
リ
ン
ハ
チ
キ
ス
イ
ン
テ
ス
チ
ナ
リ
ス

其輸出管ハ、共ニ會合シテ、腸水脉幹イン、テ、ス、チ

ハ、チ、ク、ト、為リ、或ハ、屢、二個以上ノ、小幹ト、為テ、

乳糜囊ニ終レリ

解語訓蒙
卷之十二
四十三

解剖訓蒙卷之十二終

啟蒙義舍藏版

發兌書肆

大坂心齊橋通唐物町

淺井吉兵衛

